

かんしょ腐敗症状の原因究明と防除対策の提示

- 1 代表機関・研究統括者
国立研究開発法人 農研機構植物防疫研究部門 関口 博之
- 2 研究期間：令和5年度～令和6年度（2年間）
- 3 研究目的
九州南部において発生した原因不明のかんしょ腐敗症状について、発生状況を把握し、発生要因を分析し効果的な防除法を提示する。
- 4 研究内容及び実施体制
 - ① かんしょ腐敗症状の発生状況の把握と発生要因の分析
生産者へのアンケート調査や現地圃場調査によりかんしょ腐敗症状の発生状況を把握する。
(農研機構植物防疫研究部門、農研機構九州沖縄農業研究センター、鹿児島県農業開発総合センター、宮崎県総合農業試験場)
 - ② かんしょ腐敗症状を引き起こす発生原因の特定
原因微生物の同定を行うとともに、微生物以外の要因の可能性も含めて検討し、かんしょ腐敗の発生要因を明らかにする。
(農研機構植物防疫研究部門、農研機構九州沖縄農業研究センター、鹿児島県農業開発総合センター、宮崎県総合農業試験場、鹿児島県経済農業協同組合連合会)
 - ③ 効果的な防除対策の提示
原因微生物の同定結果や要因解析結果等に基づき、発生要因に応じた効果的な防除対策を策定する。
(農研機構植物防疫研究部門、農研機構九州沖縄農業研究センター、鹿児島県農業開発総合センター、宮崎県総合農業試験場)
- 5 最終目標
かんしょ腐敗症状の発生状況と原因を明らかにし、発生要因に応じた防除対策を策定、提示する。
- 6 期待される効果・貢献
南九州地域においてかんしょ腐敗症状による被害が軽減されるとともに、本症状が未発生の生産地に対しても対策技術が普及することでかんしょの持続的な安定生産に貢献する。

【背景】

南九州の複数圃場において、**かんしょの塊根に原因不明の腐敗症状**が確認された

病害虫のまん延防止 → 早期防除が非常に重要

- 早急に腐敗症状を引き起こす原因を特定
- 防除対策を提示

腐敗症状



切断



表面のみ腐敗 内部まで腐敗

【最終目標（令和6年度までに）】

かんしょ腐敗症状の発生状況と原因を明らかにし、発生要因に応じた防除対策を策定、提示する

【研究内容の概要】

研究統括：農研機構 植物防疫研究部門

発生実態や発生状況の把握と発生要因の分析

- アンケート調査
- 現地調査

農研機構 植防研、農研機構 九冲研、宮崎農試、鹿児島農総セ



紙で回答

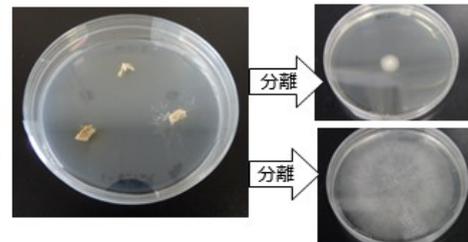
スマホで回答

圃場での腐敗症状発生状況アンケート

発生原因の特定

- 微生物の分離・病原菌の同定
- 病原菌以外の要因の可能性検討

農研機構 植防研、農研機構九冲研、宮崎農試、鹿児島農総セ、JA鹿児島県経済連



腐敗症状のあるかんしょ組織からの微生物の分離・同定のイメージ

防除対策の提示

- 病原菌の同定結果や要因解析等に基づいた防除対策の策定
- 薬剤による病原菌への抑制試験等

農研機構 植防研・農研機構九冲研、宮崎農試、鹿児島農総セ

【期待される成果】

- 南九州の発生地域におけるかんしょ腐敗症状の発生軽減
- かんしょ腐敗による減収の回復

【国民生活等への貢献】

- 生産者の収益性の向上
- かんしょ腐敗症状が未発生産地への対策技術の普及
- かんしょの持続的、安定的な生産基盤の維持向上